

平成30年6月6日

地域をつくる国際交流へ ドイツ・ミュンスター応用科学大学との交流協定締結！

福島大学は、ドイツ、ノルトライン・ヴェストファーレン州（NRW州）、ミュンスター応用科学大学との交流協定を締結しました。同大学は、再生可能エネルギーの産業集積の先進地 NRW 州で、技術開発と人材育成を担う基幹大学です。

ドイツに留学する本学学生は、州内の再エネ関連企業や「再エネで村づくり」を進める自治体、住民組織等で、インターンシップを行うことになっています。

「再エネ産業の県内集積」、「再エネを通じた地域づくり」にとって、それを担う人材育成は要となっています。ドイツとの国際交流を通じて地域をつくる福島大学がその役割を担います。

福島大学とミュンスター応用科学大学（Fachhochschule Münster, University of Applied Sciences）との交流協定締結は、2014年に始まった福島県とノルトライン・ヴェストファーレン州との連携強化の取組みをさらに深めるものです。

福島県は、復興計画の重点プロジェクトと位置付ける再生可能エネルギー推進に向けて、2014年2月、ノルトライン・ヴェストファーレン州との間で「省エネルギー、エネルギー効率及び再生可能エネルギーの分野における連携に関する覚書」を締結しました。また、県内での再エネ関連産業の集積を目指して2017年4月に県が公益財団法人福島県産業振興センター内に設立した「エネルギー・エージェンシーふくしま」は、同年11月、NRW州の再エネ支援機関である「エネルギー・エージェンシーNRW（EnergieAgentur.NRW）」との間で連携覚書を締結しています。こうした連携強化の流れのなか、新たに、再エネ推進に向けた人材交流や人材育成での連携・協力関係の深化が求められていました。

このたび、2014年に始まった再生可能エネルギーの推進にむけた福島県とNRW州との連携協力という大きな流れに、福島大学とミュンスター応用科学大学との交流協定締結、そして学生交流が新たに加わることになります。

ミュンスター応用科学大学に留学する本学学生は、ミュンスター応用科学大学やエネルギー・エージェンシーNRWの支援を受けながら、NRW州内の再生可能エネルギー産業関連企業や、「再生可能エネルギー自給100%の村」「再生可能エネルギーによる街づくり」を進める自治体や住民組織でのインターンシップを

経験します。また、ドイツから来日する留学生は、福島大学に在籍して被災地福島の実情を体験しながら、エネルギー・エージェンシーふくしまや再エネ関連企業、復興団体等でのインターンシップを行います（10月には1人目が来日予定）。再生可能エネルギーに関する取り組みや課題の最先端たる「現場」での「インターンシップ」の経験は、学生たちにとって、自らの学びがどのように地域に活かせるかを考える貴重な体験になるはずです。

再生可能エネルギーに関する産業の育成、そして、再生可能エネルギーによる村づくりにとって、それを担う人材の育成は要であり、緊急の課題ともなっています。福島大学は、今後、ミュンスター応用科学大学との学術・学生交流を通じて県とNRW州との連携をさらに深め、県や「エネルギー・エージェンシーふくしま」と協力しながら、県内の再生可能エネルギー推進を担う人材育成に取り組んでいきます。

（お問い合わせ先）

行政政策学類准教授 大黒 太郎

電話：024-548-8026

メールアドレス：a027@ipc.fukushima-u.ac.jp

国際交流センター副センター長 何 敏

TEL：024-503-3066

メールアドレス：kok-he@adb.fukushima-u.ac.jp

大学間交流協定締結概要

1. 相手大学(機関)/The Other Party	
名称 Name	日本語: ミュンスター応用科学大学 英語: FH Münster University of Applied Sciences
所在地 Location	日本語: ノルトライン・ヴェストファーレン州(以下、NRW州)ミュンスター 英語: Münster / Steinfurt, Germany
学長名 President (Rector)	日本語: ウーテ フォン ロウエウスキー 教授 英語: Prof. Dr. Ute von Lojewski
設置形態 Form of Establishment	日本語: 公立 英語: Public
沿革 History	<p>ミュンスター応用科学大学は、1971年8月1日に複数の建築、工学に関わる教育機関と職業訓練組織の統合により設立された。設立当初の2,300名という学生数に対し、現在では約14,000名。87の学位プログラムの内、38もの修士プログラムがあり、他の応用科学大学より高い割合を占めている。さらに、110名の博士課程の学生は学位取得に励んでいる。</p> <p>設立以来、ミュンスター応用科学大学は実践重視、学際的な応用科学大学として発展してきた。教員が学生とともに科学的知見の実用化に貢献することにより、ミュンスター大学は現在ドイツで成功した最大規模の応用科学大学となっている。</p>
組織及び規模 Organization & Scale	<p>【構成部局等】</p> <p>School of Architecture 建築学院</p> <p>School of Health 保健学院</p> <p>Department of Civil Engineering 土木工学学部</p> <p>Department of Mechanical Engineering 機械工学学部</p> <p>Department of Chemical Engineering 化学工学学部</p> <p>Department of Food and Nutrition 食品栄養学部</p> <p>School of Design デザイン学院</p> <p>Department of Engineering Physics 工学物理学部</p> <p>Department of Electrical Engineering and Computer Science 電気工学及びコンピューター科学学部</p> <p>Department of Social Work ソーシャルワーク学部</p> <p>Energy/Building services/Environmental Engineering エネルギー・環境工学学部</p> <p>School of Business 商学院</p>
	<p>【教職員・学生数等】</p> <p>教員数: 教授 261, その他の教員 353</p> <p>学生数: 13,974</p>
	<p>【その他(特色等)】</p> <p><u>教育研究</u></p> <p>専門家による実務的教育の提供と応用研究の推進を使命としている。これらの実践により、社会の発展に貢献している。</p> <p><u>戦略的な連携と技術移転</u></p> <p>ビジネス、学術、社会の各領域における優れたパートナーをもつ強力なネットワークを有し、未来志向の教育を学生に提供している。パートナー間の技術及び知見の移転はシステムチック的に推進されている。</p>

	<p>質の管理</p> <p>ミュンスター応用科学大学は定評のある品質マネジメントコンセプトをもち、国内で初めてシステム認証（2011年）を受けた応用科学大学である。同マネジメントシステムにより、すべての学位プログラムが認証審議会の求める水準に達することが保証されていると外部評価機関より評価を受けた。</p>
<p>2. 協定の内容/Content of Agreement</p>	
<p>協定の種類 Type of Agreement</p>	<p>大学間協定/University-to-University 主管部局： 国際交流センター Executing Division: International Center</p>
<p>3. 交流目的/Purpose of Exchange</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー分野（技術開発から社会的ガバナンス構築まで）における学术交流 ・学部や大学院レベルでの学生交流 	
<p>4. 期待される成果/Expected Outcomes</p>	
<p>ミュンスター応用科学大学は、再生可能エネルギー分野において、民間企業との技術開発をはじめ、大学が立地する NRW 州や各地の自治体、地域住民組織との協働による「再生可能エネルギーによる村づくり」プロジェクト開発まで幅広い実績を有しており、文理融合的で学際的な学术交流が期待できる。</p> <p>再生可能エネルギー分野を新産業育成の柱として重視する福島県は、NRW 州との連携を強化しており、福島県と NRW 州を代表する 2 つの大学の連携協定による学术交流の成果は、国際交流を通じた大学の地域貢献に新たな成果を加えるものとなる。</p> <p>応用科学や実践的教育というミュンスター応用科学大学の特徴を活かすことで、両大学の学生交流を、これまでのような講義の聴講を超えて、現地でのインターンシップへの参加や地域開発プロジェクトへの参加等、より実践的で応用的なものへと発展させることができる。</p>	
<p>5. これまでの経緯(準備状況、交流実績等)/Background (Preparation status, past exchange events, etc)</p>	
<p>福島県と NRW 州の再生可能エネルギー分野での連携は、福島県側では公益財団法人福島県産業振興センター内の「エネルギーエージェンシーふくしま」が、NRW 州側では EnergieAgentur.NRW がその実務を担っているが、EnergieAgentur.NRW を学術的に支えるミュンスター応用科学大学から、エネルギーエージェンシーふくしまを通じて、福島大学との連携の可能性について打診を受けたのが、両大学の協議を開始するきっかけである（2017年10月）。その後、エネルギーエージェンシーふくしまと本学の福島大学国際交流センター、地域連携課との予備的な協議を経て（2018年1月）、その後、ミュンスター応用大学のクリストフ・ヴェッター教授と本学行政政策学類の大黒准教授との間で打ち合わせが進められた。</p> <p>これまでの協議の結果に基づいて、学術・学生交流に関する協定について、ミュンスター応用大学側からの同意が得られ、5月16日に協定を締結した。</p>	
<p>6. 今後の交流計画(組織としての交流)/Exchange plans for the future</p>	
<p>2018年10月：ミュンスター応用科学大学より第1期の交換留学生が来学予定 2019年4月：福島大学からの第1期交換留学生の送り出し 今後、両大学の連携にエネルギーエージェンシーふくしまと EnergieAgentur.NRW の協力を得て、さらなる関係強化を目指して以下のテーマで協議を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー分野における、技術的開発、または社会的ガバナンス構築に関する共同研究の推進 福島や NRW 州内の企業や自治体での双方の留学生のインターンシップ実施の可能性について 再生可能エネルギー分野を超えた協力関係について 福島県と NRW 州の連携協力をさらに進めるためのその他事項 	